

広島・長崎 原爆の日のための祈り

奈良基督教会 2014年8月6日、8月9日

司式者 聖書のみ言葉を聞きましょう

「悪を離れて良い業をなし、心から平和を追い求めよ」詩編 34 : 14

1945年当時、広島の人口は約35万人、そのうち約14万人が犠牲となったと言われます。長崎の人口は約24万人、そのうち約7万人が犠牲となったと言われます。

広島「平和宣言」(2013) から

『あの日』から68年目の朝が巡ってきました。1945年8月6日午前8時15分、一発の原子爆弾によりその全てを消し去られた家族がいます。『無事、男の子を出産して、家族みんなで祝っているちょうどその時、原爆が炸裂^{さくれつ}。無情にも喜びと希望が、新しい“生命”^{いのち}とともに一瞬にして消え去ってしまいました。』……」

「生後8か月で被爆し、差別や偏見に苦しめられた女性もいます。その女性は結婚はしたものの1か月後、被爆者健康手帳を持っていることを知った途端、優しくった義母に「『あんた一、被爆しとるんね一、被爆した嫁はいらん、すぐ出て行け一。』と離婚させられました。」放射線の恐怖は、時に、人間の醜さや残忍さを引き出し、謂^{いわれ}れない風評によって、結婚や就職、出産という人生の節目節目で、多くの被爆者を苦しめてきました。」

長崎「平和宣言」(2013) から

「68 年前の今日、このまちの上空にアメリカの爆撃機が一発の原子爆弾を投下しました。熱線、爆風、放射線の威力は凄まじく、直後から起こった火災は一昼夜続きました。人々が暮らしていた街は一瞬で廃墟となり、24 万人の市民のうち 15 万人が傷つき、そのうち 74,000 人の方々が命を奪われました。生き残った被爆者は 68 年たった今もなお、放射線による白血病やがん発病への不安、そして深い心の傷を抱え続けています。」

「核兵器のない世界の実現を国のリーダーだけに任せるのではなく、市民社会を構成する私たち一人ひとりにもできることがあります。『政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないやうにする』という日本国憲法前文には平和を希求するという日本国民の固い決意が込められています。かつて戦争が多くの人を命を奪い、心と体を深く傷つけた事実を戦争がもたらした数々のむごい光景を決して忘れない、決して繰り返さないという平和希求の原点を忘れないためには戦争体験、被爆体験を語り継ぐことが不可欠です。」

司式者 69 年前に広島、長崎で投下された原子爆弾によって命を失った人々を覚えて祈りましょう。

すべて世にある人また世を去った人の父なる神よ、69 年前に広島、長崎に投下された原子爆弾によって命を失った人々の死を ^{いた}悼み、その魂を主のみ手にゆだねます。わたしたちがその犠牲をむなしくせず、世界の平和の実現と核兵器の廃絶を求め、また人の魂にまごころと愛が満ちることを願い求めて歩むようにしてください。主イエス・キリストによってお願いします。アーメン

点鐘 8:15/11:02

詩編第 42 編 (交唱)

- 1 谷川の水をあえぎ求める鹿のように || 神よ、わたしの魂はあなたを慕う
- 2 わたしの魂は神を、生ける神をあえぎ慕う || 神のみ顔を仰ぎ見られるのはいつの日か
- 3 「神はどこに」と絶えず問われて || 昼も夜もわたしの食物はただ涙のみ
- 4 思い起こせば心は高鳴る || 祭りに集う群れとともに神の家に行き
- 5 感謝と賛美の声を合わせて || 祭りの日を祝ったものだ
- 6 わたしの心はなぜ、打ち沈み || 嘆き悲しむのか
- 7 神を待ち望み、賛美をささげよう || わたしの救い、わたしの神に栄光は || 父と子と聖霊に
初めのように、今も || 世々に限りなく アーメン

服部節子さん (広島・カトリック幟町教会) の証言から

「そのうちに火が火をよび、壊れた家が燃え始めました。みんな負傷して、消す人がいないので、広島市は火の海になり、一晩のうちに焼け野原になりました。その時、真っ黒い重油のような大粒の雨が降り出しました。これは爆発後、数千フィートの上空まで上げられた煙と埃が雲をよび、雨となって降り出したのです。それでも私たちは『天の助けだ』と大喜びして黒い放射能を含んだ雨を浴びて、喜んでいたのです。その雨に濡れたため、真夏なのに高熱が出た時のようにふるえが止まりませんでした。その夜、野宿をした私たちの回りで、うめ

き声を上げていた負傷者は朝を待たずに死んでいました。

翌日から母と二人で父を探し歩きました。父は爆心地の近くで勤労作業に出かけていて、爆死していたのですが、そんなこととは知らず、炎天下の焼跡を毎日たずねて回りました。私は足の太ももに三角結びのようなガラスの破片が突き刺さっていて、痛む足を引きずって歩いていました。まだ息のある人は『水！ 水！』と叫び、歩いている人の足音を聞くと、『水をちょうだい！』と訴えていました。その人たちは『痛い』とか『苦しい』ではなく『渇き』ばかりを訴えて、死んでいきました。その人たちは心も体も渇ききっていたのではないかと思いました。私にはその人の姿が私たちのために十字架上で死んでくださったキリストの姿とダブって見えることがあります。」

サンパウロ出版「家庭の友」2006.6月号 第12回カトリック日韓学生交流会(2006. 2. 23～27)についての特集記事より

アッシジのフランシス「平和の祈り」

主よ、

わたしをあなたの平和の道具としてください。

憎しみのあるところに愛を、

争いのあるところにゆるしを、

分裂のあるところに一致を、

疑いのあるところに信仰を、

誤りのあるところに真理を、

絶望のあるところに希望を、

闇のあるところに光を、

悲しみのあるところに喜びを、

静しずくものとしてください。

聖なる主よ、

慰められるより慰めることを、
理解されるより理解することを、
愛されるより愛することを、

より多く、わたしが求めますように。

わたしたちは、与えることのなかで受け、
ゆるすことのなかでゆるされ、
死ぬことのなかで

新しく生まれて永遠のいのちに至るのですから。

主キリストによって。アーメン

(司祭 井田 泉 訳)

祈り

司式者 真理と平和の源である神よ、あなたの愛と平和をこの世界に
満たしてください

会衆 **主よ、お聞きください**

司式者 政治に関わる人びと、またわたしたちとすべての人の心に平
和を愛するまことの愛を燃やしてください

会衆 **主よ、お聞きください**

司式者 どうか今、戦争、弾圧、災害などのために家族や住まいを失
った人びと、離散させられた人びと、また飢えと暑さや寒さ、
暴力や虐待、不安や恐れのうちにある人びと（ことに―）を
顧み、あなたの救いのみ業を現わしてください

会衆 **主よ、お聞きください**

司式者 亡くなった人びと、ことに広島、長崎の原爆犠牲者に永遠の
平安と慰めをお与えください

会衆 **主よ、お聞きください**

司式者 東日本大震災の犠牲者、またことに福島第一原子力発電所の事故によって被爆した人びと、その後も危険と不安のうちにある人びとを顧みてください

会衆 主よ、お聞きください

司式者 わたしたちが貴い犠牲者の死を空しくせず、平和を造り出す者となるために、必要な知識と判断、勇気と愛をお与えください

会衆 主よ、お聞きください

司式者 これらのことを主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

主よ、憐れみをお与えください

キリストよ、憐れみをお与えください

主よ、憐れみをお与えください

天におられるわたしたちの父よ、

み名が聖とされますように。

み国が来ますように。

みこころが天に行われるとおり、地にも行われますように。

わたしたちの日ごとの糧を 今日^{きょう}もお与えください。

わたしたちの罪をおゆるしてください。わたしたちも人をゆるします。

わたしたちを誘惑におちいらせず、悪からお救いください。

国と力と栄光は、永遠にあなたのものです アーメン

司式者 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりがわたしたちとともにありますように。アーメン